

緑の相談コーナーだより

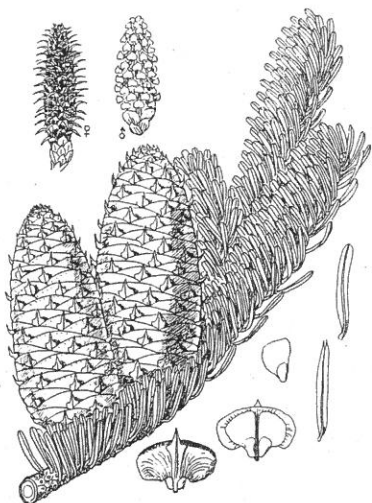
NO. 318 2011. 12. 1発行

岩見沢市志文町 794 番地

いわみざわ室内公園「色彩館」

身近な樹木 “モミ” (樅)

～クリスマスツリーとして親しまれる木～



Abies firma SIEB. et ZUCC.
モミ

美しい円錐形の樹冠をもつモミは、マツ科モミ属の常緑高木で、樹高は 25 m 以上になります。日本固有の樹種で、秋田県・岩手県よりも南に分布し、九州の屋久島までの山地に生育します。北海道にはこの仲間のトドマツが自生しており、ちょっと見た目には見間違ふほどです。深根性で適潤な肥沃地を好み、群生する陰樹で森林の下でも生育し、芽生えて 10 年くらいは成長が遅いのですが、その後はだんだん速まり、50 年くらいまで旺盛な成長をし、100 ～ 150 年で枯死します。かつて、関東地方では海岸から山地まで広く生育していましたが、現在ではほとんど枯れてしまい、衰弱した個体が散見さ

れる程度になってしまいました。モミは大気汚染や暑い気候に弱い樹木で、弱ると除除に葉が透けて枯れてしまいます。また、近年山地でもシカが樹皮を食いあらすために枯死してしまうものが増えており、地域にもよりますが、今の時代は日本のモミにとって受難の時代といわれています。

モミの名前の由来ですが、万葉集名物考に「臣木をオミノキといふは古はモミ、ツガの総称で後世モミを真モミといひ、マオの約モ也、ツガは刺あれば尖りたる意にてつがともいひしなるべし」とあり、また神武記では「草香の戦に此の木に隠れ命たすかりし人有りし故に、母木と其の処を名つけしよし有」と記されております。さらに、日本書記神武天皇記に「初め孔舎衛の戦いに人有大樹に隠れて難を免るることを得たり、よりてその樹を指して曰く恩母の如し、時の人因りて其の地を号けて母木邑と曰ふ、今オモノキと云ふは訛れるなり」とあり、契沖はこれがモミであると説いています。また、賀茂真淵は「臣木はもみの木なるべし、於と毛は同韻にて通ぜり」さらに

「古へ樅梅などを凡ておみの木と云しをやや後に樅をば真おみと云ひ、まおを役むればモなり」と記しております。これらを総合するとモミの語源はオミノキ説が有力のように思われます。

モミの材は全体が白色から黄白色をしており、利用は多岐にわたっております。軽軟な性質を活かした板などの建築材の外、全ての分野の材として用いられてきました。モミといえばクリスマスツリーを想像する人が多いと思いますが、本場のクリスマスツリーは、日本のモミとは別種のヨーロッパモミを使っています。また、本道のサンタランド・広尾町では、同じ仲間のトドマツを使っており、この時期になると各地に出荷されます。

追い越せしトラックに積まれし樅の木の

青すがすがとクリスマス近く

矢島 歎一



公園だより



バラ園

今年は春の訪れが遅く、農作業の遅れにやきもきしましたが、初夏の季節を迎える頃から天気まわりも良くなり、平年を上回る出来秋となりました。殊に秋の紅葉がひととき美しく、そして長く楽しめた年でした。しかし師走を迎えた今は、バラ園に木枯らしが吹き抜け、急激に気温も下がって、雪の季節となりました。裏山も寂しい枯れ木立となり、長い冬の眠りに入っております。巷では、気ぜわしい年の瀬の賑わいが繰り広げられているでしょうが、バラ園には静寂が広がっています。雪化粧を施したハマナスの丘では、取り残された真赤なハマナスの実が、虹の女神イリスの像に、一夏の思い出を語りかけているようです。

♥ 今月のバラ園からの一口メモは、バラの利用法についてです。食用としては花卉のジャムや実のジャムが輸入され、販売されたりしています。バラの花弁でジャムを作る場合、農薬などの心配のない花卉を集めて水洗いし、他の果実のジャムの香りづけ程度に加えるとよいでしょう。花弁は黄色とかピンクがよく、赤色系は苦味があるといわれます。実のジャムは、ハマナスのように実の中に毛のないものを使います。一般のジャム作りと同じように、果実を割って中の種子を捨て、同量の砂糖で煮込みます。ビタミンCの多い食品としてヨーロッパでは好評といわれます。

室内公園色彩館では、サザンカの花が満開となり、ヤブツバキの花もほころんできております。また、フクシアの花や四季咲き性のバラが次々に開花し、花好きの方を楽しませてくれます。外は雪の季節となりますが、ここではこれからも緑の芝生や花々を観賞し、楽しんで頂けます。

南国温室では、三尺バナナの実がいよいよ収穫期を迎えます。四季なりミカンがたわわに実り、パパイアの実も色づいてきました。アンズリュウム（オオベニウチワ）やストレリチア（極楽鳥花）の花が咲き、ここは南国ムードが溢れております。

相 談 日 記

問 マイマイガ（ブランコケムシ）の発生状況についてですが、最近、道内各地で大発生のニュースが報道されておりました。岩見沢市など空知地方でもここ2～3年広い地域で発生しているようで、春先から幼虫が庭木や街路樹の葉を食いあらしたり、夏の終わり頃には、成虫が市街地の夜間照明などにたくさん集まっているのを目撃しています。各地でこの被害に対処するため、自治体が対策を立てているところもあるようですが、大量に発生すると不気味で、とても気持ち悪いのが実態です。この虫の大発生は何年くらいつづくのか？また、生態や有効な対処方法などを知りたいのですが。

答 最近の岩見沢近郊でのマイマイガの発生は2008年で、この年は後志地方や石狩地方にも異常発生しました。2009年には、北海道水産林務部の調査によると空知、上川、日高地方のカラマツ人工林を中心に6,474haの被害が報告されています。この年には、岩見沢市内の公園や街路樹での被害も顕著となり、今年の夏も減少傾向にあるものの、市民からの苦情が寄せられました。また、今年の春には、十勝地方の市町村での大々的なマイマイガ対策などが新聞報道され、一般市民の皆さんは、何時までこのような状態がつづくのかと心配されていると思われます。

生態と被害状況 マイマイガは、ほぼ10年間隔で大発生し、通常1～3年で終息します。主な終息要因は、ウイルスによる膿病や菌による疫病といわれます。幼虫は5月頃孵化します。孵化した幼虫は、糸を吐きぶら下がりながら風に乗って分散していきます。このことから別名ブランコケムシともいわれます。孵化したばかりの幼虫は、毒針毛（どくしんもう）を持ち、触れると皮膚炎を起こします。夜行性で、日中は静止していることが多いようです。気温が18℃前後になると木に登り始め、葉の食害を始めます。7月頃には枝上で蛹になり、8月頃には成虫になります。食害をうけた樹木などが枯死にいたることはありません。

防除などのポイント 幼虫は小さいうちなら、早期の殺虫剤散布が効果的です。

公共施設などに集中するのを防ぐため、街灯などをLED化やナトリウム灯化し効果をあげた事例も報告されています。空知地方の被害は、そろそろ終息に向かっていくのではと期待されます。

態 \ 月	1～3	4	5	6	7	8	9	10	11～12
卵(越冬) [・]									
幼虫(食害) [十]			+++++	+++++	+++++				
蛹 [●]					●●●				
成虫(産卵) [○]					○○○○				
卵(越冬) [・]									

生活史の概略

豪華で気品が漂う花姿～デンドロビウム 花言葉 わがままな恋人



ラン科デンドロビウム属の植物で、温室で最も普通に栽培される多年生のランです。原産はヒマラヤから雲南の熱帯アジア、東アジア、ニュージーランドで、太いトクサ状のバルブ（茎）全体に花を咲かせます。ノビルタイプと、花茎が長く伸びて花が咲くデンファレタイプが流通しております。

デンドロビウムはギリシャ語の dendron（樹木）と bios（生活）

に由来し、樹木上に着生するものが多いことからつけられました。コウキセッコク（高貴石斛）という日本名もありますが、これは学名の直訳によるもので、大正2年に牧野富太郎先生によって命名されました。手入れのポイントは、洋ランの仲間としては、温室がなくても育てやすい種なので、あまり高温になるところには置かないようにすることです。春から秋までは日当たりの良い場所に置きますが、10℃以下の温度に2～3ヵ月おかないと花芽ができないので、注意しましょう。なお、購入するときは、バルブ（茎）のしっかりしたものを選びましょう。

12～1月の園芸講座・行事案内

市民園芸講座の内容紹介

♣ 冬の写真教室

日時 12月 4日（日） 10:00～12:00

講師 ナチュラリー写真家 若林 信男 さん 定員 20人 参加料 無料



♣ お正月のアレンジメント

日時 12月 11日（日） 13:00～15:00

講師 中央フラワー協会 伊藤とみ子 さん 定員 40人 材料代 2000円

✕♥ クリスマスオカリナ・コンサートが開かれます！

日時 12月 11日（日） 14:30～

♫ オカリナ演奏 斉藤かすみ さん ムピアノ演奏 角田さとみ さん

♣ 庭木・花木・果樹管理の基本

日時 1月 22日（日） 13:00～15:00

講師 緑化相談員（樹木医） 泉 征三郎 定員 40人 参加料 無料

編集・発行 北海道グリーンランド（空知リゾートシティ株式会社）

お問い合わせは 室内公園「色彩館」緑の相談コーナー 25-6111 まで